
瞳

奈津美

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

瞳

【Nコード】

N5468B

【作者名】

奈津美

【あらすじ】

新一と蘭のバレンタインデーのお話です

―あなたの瞳に映るのは誰ですか？

ポカポカと暖かい陽気な二月

いつもに比べて、今年はやけに暖かい日々が続いている

やはり、地球温暖化が原因なのだろうか

いや、こんな難しいことを考えるのはよそう

「ふうー読み終わったあ。」

少年は、校庭のすみにあるベンチに腰かけて

うーんと伸びをした

二日前から読み始めた推理小説が読み終わり

小説の感想をそつと呟いた

「まずまずだな、ただ・・・トリックが簡単だったぜ。」

やはり、この少年は優れた推理力を持っている

父親ゆずりの推理力に母親ゆずりの整った顔立ち

そんな彼がもてない訳は無い

「新一先輩、チョコ・受け取って下さい！」

「え！」

突然目の前に現れた少女に言われた一言

新一は頬を赤く染めて、優しく言った

「・・・ありがとう。」

「頑張ってくださいね！」

中学生くらいの女の子でパッチリした目が特徴的だった

彼女の瞳には俺が映っていた

「じゃあな。」

「はい！」

彼女は足早にその場を去った

年々、手作りチョコの数が増えているが

新一はガツクリと肩を落とす

「はぁ・・・本命からは何も無いなぁ。」

そう、新一の愛する蘭からはまだチョコをもらえていない

まだ、彼氏と彼女という関係まで発展しては無いが

このイベントの力を借りて、告白でもしてしまおうと考えていたのに

「おー!」

クラスメートの男女の告白シーンが見える

男はチョコを受け取るのだろうかとハラハラする新一

男は頭を照れくさそうにかきながらチョコを受け取った

「おめでと・・・。」

ふわぁ〜あと大きな口をあけてあくびをする

いい加減、本命からのチョコが欲しい

まだ空手部の練習は終わらないのだろうかと校庭から見える大きな時計を見た

あと10分程で部活動終了時刻になる

「よし、今度はこっちの本を読むか。」

新一は、バックから新たな推理小説を取り出した

今度は、さっき読み終わった本より分厚い本である

最近発売して、まだ一度も読んでいない本である

新人作家の割にはなかなかいい文章を書くなあと新一は感動した

魅力的な本に、新一はのめり込んでしまっていた

「新一!!!!」

「え……。」

愛しい声が耳に響く

新一はすぐに本を閉じて、顔を上げる

目の前には蘭がいた

ハアハアと息を切らして、両手を合わせた

「ゴメン！遅くなっちゃって！」

「別にいいよ、本読んでたし。」

「ゴメンね？」

「いいっていいって。」

蘭の瞳に映る俺の顔は、嬉しそうだった

俺の瞳に映る蘭の顔は、とても綺麗だろう

「これ・・・あげる。」

「チヨコ・・・。」

「いっとくけど、義理だからね！」

恥ずかしそうにそっぽを向く蘭

俺はスツと立ち上がって後ろから抱きつく

「ちょ、ちよつとお！」

「義理でも嬉しいぜ？俺にとっては本命からのチョコだし。」

「え・・・？」

蘭はアタフタしている

おそらく状況が読めないであろう

新一はフツと微笑んで言った

「好きだ、蘭。ずっとずっと好きだった。」

「新一・・・。」

俺は蘭からゆっくりと離れた

蘭はくるっと俺の方を向いて、ニコツと微笑む

「私も・・・好きよ。義理チョコなんかじゃないからね?」

「ああ・・・分かってる。」

「そっか、探偵さんにはお見通しかあ。」

「・・・帰ろうぜ?」

「・・・うん。」

二人は冷え切った手を握り合って、家に帰った

二人の顔には笑顔が絶えなかった

—俺の瞳に映るのは、愛してる人です。

（後書き）

こんな駄作を投稿しようか悩みました

蘭の出番は少ないし、新一ばっかだし

なんか二人の雰囲気を書き表せなかったし

ごめんなさい、評価お願いします（〇*。―。）（〇>▽〇ミッ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5468b/>

瞳

2010年10月9日22時50分発行